

- 溪明会こごみ 工事経過報告書 -

溪明会こごみ(「法人本部」「日中サービス支援型ホーム こごみ」「放課後等デイサービス事業所 きっずる一むこごみ」「地域交流スペース くりからの里」)の工事経過並びに施設の内容について、その概要をご報告致します。

この度開所致します溪明会こごみは、高齢または重度の知的障がいがある方々の地域移行を促進すると共に、地域の発達障がいや情緒障がい等のある児童の方々等を対象とした障がい児向け学童保育事業所です。併せて法人事務をつかさどる本部と地域の皆さんとの交流の場を併設しました。

「法人本部」は、1階中央エントランスホール西に配し、法人事務全般を担うと共に、各事業所への情報の発信源でもあります。また、今はコロナ禍で一定の制限を有しますが、各事業所から一同に会して会議等が催せるように大会議室を設けました。

「日中サービス支援型ホームこごみ」は、ここ数年来の法人の課題であり念願としていた高齢を迎えた障がい者の方々を対象としたグループホームで、建物の2階部分を占めています。一般的に高齢障がい者の地域移行は制度的にも非現実的に思われていましたが、全国的に障がい者の高齢化が進み社会問題となり、新たな日中サービス支援型という日中活動を包括した24時間フルサービスによる完結型のグループホームの категорияが新設されたことから、悲願の達成に向け計画立案したものです。定員は10名プラス短期入所1名を1ユニットとし、男女別の2ユニットで構成致しました。居室は全室個室とし周囲の目を気にせず介護を受けられる環境を整え、お風呂は利用者の方は勿論職員にも優しい介護浴槽を完備しました。

「放課後等デイサービス事業所 きっずる一むこごみ」は、定員10名の※スヌーズレンルームを完備した小矢部市初の本格的な放課後等デイサービス事業所となり、建物上では1階東の部分にあたります。事業の開始は年明けとなりますが、平成30年度に砺波市で開設した放課後等デイサービス事業所 きっずる一むクローバーでの経験とノウハウを生かし、お子さんの自立に向けた支援はもとより、お父さんお母さん他ご家族が安心して働ける環境作りのお手伝いができれば嬉しく思います。

※ スヌーズレン 知的障がい児(者)を魅了する感覚空間を用いて彼らにとって最適な余暇やリラクゼーション活動を提供する実践、また、その過程を通して構築されてきた理念

その他 1 階に「地域交流スペース くりからの里」を設け、地域にお住まいの皆さんのフリースペースとして、誰もがくつろげるコミュニティーの場、或いは趣味の発表の場、地域の会合の場等、その他自由な発想でご活用頂ければと願っています。また災害時は福祉避難場所としての機能も備え、少しでも地域のお役に立てればと考えています。

建物の概要について、簡単にご説明致します。溪明会ごごみは、「法人本部」「日中サービス支援型 ホームごごみ」「放課後等デイサービス事業所 きっずる一むごごみ」「地域交流スペース くりからの里」、これらを総称した名称ですが、建物の仕様は、鉄骨造り 2 階建、建築面積は、法人本部が 436.49 m²(132.27 坪)、日中サービス支援型 ホームごごみが 967.31 m²(293.12 坪)、放課後等デイサービス事業所 きっずる一むごごみが、209.94 m²(63.62 坪)、地域交流スペース くりからの里が 106.66 m²(32.32 坪)で、これらの延べ面積は、1,720.40 m²(521.33 坪)となります。総工費は、約 4 億 7 千 6 百万円、工期は令和元年 9 月から着工し、約 1 年 1 ヶ月の工事期間を経て完成致しました。その間、地域の皆様にはご迷惑をおかけすることもあったかと存じますが、お陰様で事故もなくめでたく今日の竣工式を迎えることができました。改めて感謝申し上げます。

溪明会ごごみは、地域に愛される障がい福祉施設でありたいと心から願っております。石動、綾子地区の皆様には、温かくお見守り頂きますようお願い申し上げますと共に、私どもも地域の一員としてその責任を果たす所存ですので、何卒宜しくお願い致します。

終わりになりますが、このコロナ渦にあって、施設整備にご理解頂き、ご支援頂きました富山県様並びに小矢部市様に対しまして、心より感謝申し上げますと共に、日頃からご理解とご協力を賜っております関係各位はもとより、地域の皆様方に厚くお礼申し上げます、工事経過報告とさせていただきます。

令和二年九月二十六日

社会福祉法人 溪明会
常務理事 宮 西 聡